

熱

四年 15
 筆順 + 六 勗 執 執 執
 オン ネット
 フン あつ しい

成り立ち



「いきおいがよい」という意味を表した「勢(5年756)」に、火のもえる形を表した「灬」を加えて作った字で、「火が勢いよくもえる」ことを表した字です。「火のようにあつい」という意味の字です。「温度が高い」ことです。【例】熱湯、熱帯地方。

「温度を高める力」のこともいいます。【例】熱量、熱源。また、「物事に心をうちこむ」こともいいます。【例】熱中、熱心、熱望。

使い方

▽熱湯(あつ)ともしらずに、手をつっこんだら、その熱さに思わず、「あつ」とさげびました。わたしは本当にそっかしいので、けがばかりしています。

▽なんだか熱があるようなので、体温をはかったら、三十七度五分ありました。

熟語例

- ▽熱湯(あつ)のお湯。わいているお湯)
- ▽熱帯地方(あつ)一年中暑い地方。赤道のまわりの、南北二十三度二十七分以内の地域をいいます。「この植物園は、熱帯地方のめずらしい木や花を集めてあります」などというふうに、つかいます。
- ▽熱量(あつ)物を温めたり、動かしたりする熱の量。単位をカロリーといいます。「この装置はたいへんな熱量をたくわえることができる」などというふうに、つかいます。
- ▽熱源(あつ)熱を与える源。「このヒーターが、部屋を温める熱源となっている」などというふうに、つかいます。
- ▽熱中(あつ)夢中になって、なにかをすること。「野球に熱中する」などというふうに、つかいます。

使い方

- ▽ぼくは超能力について書いた本を読みました。とくに念力について書いてある所が、とてもおもしろかったです。念力というは本当にあるのでしょうか。
- ▽わたしは、夏休みに、念願のデイズニールランドに行っていました。おとぎの城や、海賊船など、とても楽しかったです。

熟語例

- ▽念願(ねん)いつも心の中で、願っていること。「念願の初優勝をとげる」などというふうに、つかいます。
- ▽念力(ねん)思いをこめると生まれる、ふしぎな力。「念力をも通す」という言葉があります。心に強く思うと、ふしぎと、そのことがかなえられるという意味です」などというふうに、つかいます。
- ▽入念(ねん)念入り。注意をこめて何かをすること。「入念にウォーミングアップをしてから、プールに入った」などというふうに、つかいます。
- ▽信念(ねん)心に深く信じていること。「あくまでも自己の信念をつらぬき通す」などというふうに、つかいます。

念

四年 8
 筆順 八 今 念
 オン ネン
 フン

成り立ち



「今(2年141)」という字と「心(2年167)」という字とを組み合わせて作った字です。

「今、心の中にあること」という意味の字です。「心が働いている」ことを表した字です。「心に思う」ことです。が、とくに「深い思い」の意味に使われることがあります。【例】念願、念力、入念。

「念仏」は、「深く仏を思う」という意味だけではなく、「仏の御名をとええ、いのる」ことをいいます。